

## 「中風の癒し」

ルカの福音書 5:17~26

### はじめに

中風（ちゅうふう、地方によって「ちゅうぶ」、「ちゅうぶう」、「ちゅうふ」などと呼ぶところもある）は、現在では脳血管障害（脳卒中）の後遺症（偏風）である半身不随、片麻痺、言語障害、手足の痺れや麻痺などを指す言葉として用いられている。中気、卒中または俗に「よいよい」などともいう。（フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』より抜粋）

今日の箇所はそんな「中風」と呼ばれる、当時の医学や知識では手の施しようのない重篤な病を患った人が、イエシュアの御言葉によってたちどころに癒されるという出来事です。しかしそれはあくまで日本語の単語や文法、表現や言い回しによって頭に描き出されているにすぎない、うわべだけの情報です。本当に大切な情報は常に隠されています。この秘密、奥義を解き明かすための「鍵」となるのが神の御子イエシュアであり、イスラエルです。そしてイエシュアご自身も語られ、今日のイスラエルにおいても用いられるヘブル語です。聖書の原語であるこの言葉によって聖書を読み解くことは、神の御心、ご計画を知る上で最も有効な手段と言えます。さらに、そのヘブル語の単語それぞれの最初の言及、つまりその単語が聖書において最初に使われた記述、出来事からその本来の意味を追求することは、「初子（初穂）は主のもの（出 34:19）」という神のご性質に則した、究極の聖書解釈法であると私は考えています。ですから今日もその法則に則って解き明かしを行います。どうぞ聞く一人ひとりに聖霊の助けがありますように。

### 1. 中風の人

ルカの福音書【新改訳 2017】

5:17 ある日のこと、イエスが教えておられると、パリサイ人たちと律法の教師たちが、そこに座っていた。彼らはガリラヤとユダヤのすべての村やエルサレムから来ていた。イエスは主の御力によって、病気を治しておられた。

5:18 すると見よ。男たちが、中風をわずらっている人を床に載せて運んで来た。そして家の中に運び込み、イエスの前に置こうとした。

5:19 しかし、大勢の人のために病人を運び込む方法が見つからなかったので、屋上に上って瓦をはがし、そこから彼の寝床を、人々の真ん中、イエスの前につり降ろした。

イスラエル全土から「パリサイ人たちと律法の教師たち」が集まり、家の中でひしめき合っている様子が描かれています。そこに、ある男たちが一人の「中風をわずらっている人」を運んで来ます。ヘブル語ではここに「打ち殺す、突き刺す」という意味のナーハー(נָהַר)という言葉が使われており、つまり「中風をわずらっている人」とはヘブル語では「(あらゆる人々から) 打たれ、突き刺され、殺される人（創世記 4:15）」という意味になるのです。そして男たちはこの中風の人を家の中に運び込もうとするのですが、大勢の人たち、すなわち「パリサイ人たちと律法の教師たち」に阻まれて、それができなかったとあります。この様子が一体何をたとえ、何の「型」を表しているかお分かりになるでしょうか。これはすなわち

イエシュアの初臨の「型」なのです。十字架によってその身体を打たれ、突き刺され、殺されるために来られた初臨のイエシュアは、パリサイ人や律法学者らユダヤ人の指導者たちによって阻まれ、拒まれ、イスラエルの家の真ん中に入り、立つことができませんでした。その様子が、その「型」たとえばここには表されているのです。

そして次に、男たちは中風の人を運び、屋上に「**上って…人々の真ん中**」につり「**降ろした**」とあります。この様子はもちろんイエシュアの復活と昇天、そして再臨を表した「型」です。再臨のイエシュアはイスラエルの家に、その中心に迎えられ、恐れられ、崇められる存在となることがここにはたとえられ、表されているのです。

## 2. 友よ

ルカの福音書【新改訳 2017】

5:20 イエスは彼らの信仰を見て、「友よ、あなたの罪は赦された」と言われた。

そして、イエシュアはこのような行いをした男たちの「**信仰を見て**」とあります。信仰とは、人の勝手な思い込みや願いを指すものではありません。神の御心にかなう、神のご計画に則した、等しい思い、考え、行いを指すものです。イエシュアは男たちのこの行いの中に、ご自分がこれからなされる神のご計画、すなわち初臨と再臨の「型」を見られたのです。

そしてイエシュアはこう言われます。「**友よ、あなたの罪は赦された**」と。このイエシュアの御言葉は男たちに対して語られたものでも、中風の人に対して語られたものでもありません。イエシュアの「**友**」に向かって語られたものです。ではそのイエシュアの「**友**」とは一体誰でしょう。筆者ルカは後の 12:4 においてイエシュアがご自分の弟子たちに対して「わたしの**友**であるあなたがた」と呼んでおられたと記していますので、イエシュアの友とはイエシュアを信じ、その弟子となる者たちを指すのです。この弟子たちから今日の教会は始まりました。イエシュアはユダヤ人としてお生まれになられたのでユダヤ人、イスラエルの民は友ではなく家族、または兄弟です。ですからイエシュアの友とは私たち異邦人の教会を指す言葉と言えます。

では「**罪は赦された**」とはどういう意味、どのような状態を指すのでしょうか。一般的な概念としてのそれは自由、解放というようなイメージですが、ここに使われているヘブル語サーラハ(חָלַט)は本来、それとは全く逆の意味を持った言葉なのです。

出エジプト記 【新改訳 2017】

34:9 彼は言った。「ああ、主よ。もし私がみどころにかなっているのでしたら、どうか主が私たちのただ中において、進んでくださいますように。確かに、この民はうなじを固くする民ですが、どうか私たちの咎と罪を**赦し**、私たちを**ご自分の所有**としてくださいますように。」

このように「**赦し**」サーラハとは、神「**主が私たちのただ中において、進んで**」くださり、神の「**所有**」神のもの、全く神に従うものとなることを意味する言葉なのです。これは本来、イスラエルの民だけに対して成就されるものでしたが、私たち異邦人もイエシュアを信じ、イエシュアの弟子、イエシュアの「**友**」

となるならば、このイスラエルと同じく扱われるということが、約束が、ご計画がこの「友よ、あなたの罪は赦された」というイエシュアの御言葉には表されている、秘められているのです。

### 3. 心

5:21 ところが、律法学者たち、パリサイ人たちはあれこれ考え始めた。「神への冒瀆を口にするこの人は、いったい何者だ。神おひとりのほかに、だれが罪を赦すことができるだろうか。」

5:22 イエスは彼らがあれこれ考えているのを見抜いて言われた。「あなたがたは心の中で何を考えているのか。」

イエシュアは律法学者たち、パリサイ人たちの「心」を、そこにある考えを見抜かれました。この「心」のことをヘブル語でレーヴ(לֵב)といいます。その最初の言及は以下の記述です。

創世記【新改訳 2017】

6:5 【主】は、地上に人の悪が増大し、その心に凶ることがみな、いつも悪に傾くのをご覧になった。

このように、人の「心」レーヴとは本来、「いつも悪」すべて悪であり、神に逆らうもの、イエシュアに逆らうものであるというのがヘブル語の概念です。そしてこの御言葉にあるように、その悪はやがてこの世に「地上に…増大し」ていきます。聖書が示す世の終わりとは、地上に善が増大する日ではありません。地上に悪が増大し、世界が悪一色に染まる時です。その悪から救うべき者たちを救い出し、そしてその悪を滅ぼすために神が、イエシュアが来られる日です。

### 4. どちらが易しいか

5:23 『あなたの罪は赦された』と言うのと、『起きて歩け』と言うのと、どちらが易しいか。

このイエシュアの二者択一の質問にも神のご計画が秘められています。なぜならどちらが「易しい」かという箇所に使われているカーラル(קָלָל)という言葉は本来、これとは全く異なる意味をもったものだからです。

創世記【新改訳 2017】

8:8 またノアは、水が地の面から引いたかどうかを見ようと、鳩を彼のもとから放った。

これはノアの大洪水の終わりにノアが箱舟の中から行ったことを記したのですが、「水が地の面から引いたか」という箇所に聖書で最初のカーラルがあります。このようにカーラルとは本来、地の面から、地上から引く、干上がる、蒸発することを意味する言葉なのです。つまりイエシュアはやがて「地上に人の悪が増大」する時「あなたの罪は赦された」と言われる者と「起きて歩け」と言われる者のどちらがカーラル、すなわち「地の面から」上げられ、いなくなるかと言っておられるのです。先ほど「友よ、あなたの罪は赦された」とは、私たち教会に語られた神のご計画であると述べました。つまり「どちらが易しいか」どちらがこの地上から天に上って行くのか、それは異邦人の教会である、すなわち「地上に人の悪が

増大」する時、教会は携挙される、カーラル、地の面から引き上げられるということがここに示されている、暗示されているのです。

#### I テサロニケ人への手紙【新改訳 2017】

4:16 すなわち、号令と御使いのかしらの声と神のラッパの響きとともに、主ご自身が天から下って来られます。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、

4:17 それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、空中で主と会うのです。こうして私たちは、いつまでも主とともにいることになります。

そしてもう一方の「**起きて歩け**」と言われる者たちとは、天に上げられることなく、再びこの地上に起こされ、建て直され、神とともに、イエシュアに聞き従って歩く、歩むようになるイスラエルを指し示しているのです。

## 5. 地上の家

5:24 しかし、人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたが知るために——。」そう言って、中風の人に言われた。「あなたに言う。起きなさい。寝床を担いで、家に帰りなさい。」  
5:25 すると彼はすぐに人々の前で立ち上がり、寝ていた床を担ぎ、神をあがめながら自分の家に帰って行った。

先ほど「**罪を赦す**」という意味のサーラハは本来、イスラエルの民が神の所有の民となることを表す言葉であると述べました。ここでイエシュアはご自分を指して「**人の子が地上で罪を赦す権威を持っている**」と語っておられるように、イスラエルの民はこの「**地上で**」この地上において神の所有の民、選びの民となり、それが「**人の子**」すなわちイエシュアによって成し遂げられることがここに示されています。そのたとえ、その「型」としてイエシュアは「**中風の人に言われた**」ということであり、つまり、ここからの「**中風の人**」は、先ほどのイエシュアの初臨と再臨の型ではなく、イスラエルの民、ユダヤ人とも呼ばれる彼らが地上において集められ「**自分の家**」であるイスラエルの地、神がかつてアブラハム、イサク、ヤコブに約束されたその地に、その子孫たちが帰るということが示されている、命じられているということなのです。そしてそれを成し遂げる権威を持っておられる御方が人の子、メシア、イエシュアであることの「型」がここには表されているのです。やがてイエシュアがこの地上に再臨される時、イスラエルはこの「**中風の人**」のように、イエシュアによって、その権威によって、癒され、回復し、まさに「**神をあがめながら自分の家に帰って行**」く、自分たちに神が約束された地に帰り、そこを受け継ぐ、所有するようになるのです。

## 6. 驚くべきこと

5:26 人々はみな非常に驚き、神をあがめた。また、恐れに満たされて言った。「私たちは今日、驚くべきことを見た。」

最後に、人々が思わず言い放った「驚くべきことを見た」という箇所に使われているヘブル語パーラー (אֲשֶׁר) の最初の言及を見てみましょう。

#### 創世記【新改訳 2017】

18:14 【主】にとって不可能なことがあるだろうか。わたしは来年の今ごろ、定めた時に、あなたのところに戻って来る。そのとき、サラには男の子が生まれている。」

これは主がイスラエルの父祖アブラハムに語られたものです。「不可能なこと」とあるのが聖書で最初のパーラーです。それは本来、神の二つの約束、ご計画を指し示しています。一つはアブラハムに子孫が与えられること、そしてもう一つは主が再び「定めた時に、あなたのところに戻って来る」ということです。やがて主イエシュアがこの約束を果たされます。すなわちアブラハムの子孫であるイスラエルの民を海辺の砂、空の星の数ほどに増やし、繁栄させるために、主イエシュアは地上に再臨されるということです。このように、パーラーという言葉には、単なる感情表現だけでなく、まさに驚くべき事実が秘められているのです。

今日の箇所を単なる昔の出来事として理解するだけでも、イエシュアはいかなる病も癒し、また人の罪を赦す権威をお持ちであることがわかります。しかし述べたように、ヘブル語のその最初の言及を通して読み解くならば、そこには神の驚くべきご計画が表されている、秘められているのです。あらゆる病が癒されること、すべての罪が赦されることは素晴らしいことです。しかしそれらはすべて「神の国」において与えられる、味わうことができるものです。再臨のイエシュアによって建てられる、イスラエルを通して地上のすべてが祝福されるというその御国においてのみ成就するものなのです。

#### マタイの福音書【新改訳 2017】

6:33 まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。

「神の国を求める」こととは、それが与えられる、そこに入ることを願い求めるだけでなく、それがどのように建てられ、どのようにして与えられるのかということを知る、知ろうとすることも含まれます。聖書はそのために書かれた本なのです。これからもこの「神の国」を求めて、聖書を読み進んでまいりましょう。